



みんなの声を県政へ  
茨城県議会議員

きよし  
とつつか 潔



## 「人が輝くまちづくり」に全力で取り組んでいます！

皆様方には平素より外塚潔の県政活動につきまして、多大なるご支援とご協力をいただき誠に有難うございます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症により、亡くなられた方々にご冥福を謹んでお祈り申し上げますとともに、罹患された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また、ロシアのウクライナ侵略により、犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表すとともに、被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

令和3年度 営業戦略農林水産委員会では「アフターコロナを見据えた本県の観光振興」を重点テーマに掲げ、感染防止を大前提に『いば旅あんしん割や地域応援クーポン券』など利用者の利便性向上や観光業支援と県内各地の観光需要の回復に向けた事業者支援などを図る為の調査活動を行って参りました。

**決算特別委員会 副委員長**として、本県の令和2年度歳出決算額1兆3517億2890万4千円の承認をしました。審議では第3期森林湖沼環境税の有効性や新型コロナウイルス感染症拡大防止対策関係等活発な議論が交わされました。

令和4年1月28日臨時議会が開かれ年明け以降、オミクロン株などの影響により急速に拡大し、予断を許さないため**無料検査の開始**や**三回目のワクチン接種の前倒し**、経済対策へ対応など補正予算総額442億34百万円を審議しました。

3月定例会では本県の**令和3年度当初予算1兆2816億79百万円を承認**しました。審議では、県民の命と健康、暮らしを守る施策等を安全安心が感じ

られる視点を第一に審査し、未来を見据えた取り組みでは、TXの県内延伸に向けた調査検討費1800万円など議論を交わしました。

令和4年度は、**防災環境産業委員会 委員長**として『かけがえのない自然環境の保全』を重点審査テーマに、本県の豊かな自然を守り、美しい環境を未来に引き継いでいくため**カーボンニュートラル**を目指した**地球温暖化対策**や、**自然環境・生物多様性の保全**、**水質浄化対策**、**循環型社会を実現**するための活動を行って参ります。

6月定例会では、**予算特別委員会 委員**として補正予算99億69百万円を審議し感染症拡大防止対策に医療関係と時短要請など関連事業者支援一時金等を承認しました。

コロナ禍の中、侵略戦争等により原油価格や物価の高騰による影響に対し、国は**原油価格対策**と**社会経済活動の回復を確かなものとする対策**を決定しました。

スピード感をもって、**農業分野における燃料・肥料・飼料価格高騰対策**を進め、先行き不透明感が強まる中、**県民の命と健康、そして暮らしを守るために感染拡大防止と社会経済活動の本格化に向けて、身近な暮らしと経済の回復を図るために積極的に取り組んでまいります。**

令和4年も、「みんなの声を県政へ」という初心に沿い「より便利に、より快適に、人が輝くまちづくり」を実現するための活動をして参ります。

引き続き県政発展のために尽くして参る所存でございますので、皆様方には、倍日のご指導ご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。



首相官邸にて岸田総理と



「NO WAR」 ウクライナに平和を！



自民党福田総務会長と共に

## 1. 森林湖沼環境税を活用した湖沼・河川の水質保全について

## (1) 湖沼・河川の水質保全の最終目標と今後の予算配分などの在り方



## 外塚議員質問

森林湖沼環境税は、令和4年度からさらに5年の課税延長が決定されたが、達成すべき最終目標や、その実現までのロードマップが示されていない。

霞ヶ浦の水質浄化を早期に実現するためには、生活排水対策に集中投資することは当然だが、霞ヶ浦流域におけるNP型高度処理型浄化槽への転換や下水道への接続件数の単年度目標は、課税延長前を下回る約1,250件と聞く。

この単年度目標では、約2万2,000件にのぼる、霞ヶ浦流域の生活排水未処理世帯数の解消までに、約20年かかってしまう。20年もかけず、10年、7年と前倒しをして目標が達成できる手法を考え、短期集中で投資すべきである。

知事に、森林湖沼環境税を活用した湖沼や河川の水質保全の最終目標と、その実現までのロードマップを確認する。

また、税の投資効果を踏まえながら、令和5年度以降、森林と湖沼・河川への予算配分や事業内容の改善を行う考えがあるのか。

## 大井川和彦知事答弁



これまで、森林湖沼環境税を霞ヶ浦の水質浄化対策に重点的に活用した結果、霞ヶ浦流域の生活排水処理率は、平成19年度の65%から令和2年度には81%まで向上した。

霞ヶ浦水質浄化の最終目標である「泳げる霞ヶ浦」を早期に達成できるよう、NP型の高度処理型浄化槽の設置促進、小規模事業所の排水対策の強化、畜産対策などに取り組み、効果を検証しながら税を活用していく。

令和4年度の森林湖沼環境税活用事業は、「必要な事業に必要な予算」という考えで、森林が10億円余、湖沼・河川が7億7,000万円余とした。

森林と湖沼・河川の事業は、事業費の比率を固定化せず、弾力的に判断してきた。加えて、霞ヶ浦の水質浄化のため、霞ヶ浦導水事業として多額の予算がつけ込まれていることも考える必要がある。

令和5年度以降の森林と湖沼・河川の事業費は、事業の効果検証をし、これまでと同様、事業費比率を固定化せず、必要な事業に必要な予算を計上していきたい。

## (2) 「泳げる霞ヶ浦」の実現に向けた流域・湖内対策



## 外塚議員質問

霞ヶ浦の水質浄化の最終目標は「泳げる霞ヶ浦」の実現であり、このためには、県や市町村による流域対策と、国による湖内対策の両方が必要である。

生活排水対策では、生活排水未処理世帯を無くす時期を定めて、NP型高度処理型浄化槽への転換や下水道への接続件数の年度目標を精査し、毎年、達成度合いをチェックすべきと考える。

工場や事業所の排水対策では、飲食店経営者などの理解の下で進めることが重要だが、どの程度の成果を上げてきたのか。

また、西浦よりもCOD濃度が高い北浦の水質浄化対策では、どのような目標と実現期間を想定して取り組んでいくのか。

さらに、湖の中の水質汚濁原因もあるため、国が進める霞ヶ浦導水事業や西浦・北浦へのウエットランドの整備なども、国に繰り返し要望して欲しい。

県は、「泳げる霞ヶ浦」実現のため、水質汚濁原因ごとに、どの程度のスピード感で、西浦・北浦の流域対策と湖内対策を展開していくのか。

## 矢口県民生活環境部長答弁



霞ヶ浦のCODの排出負荷割合は、生活排水17%、畜産12%、小規模事業所7%のため、水質浄化能力が高いNP型の高度処理型浄化槽の設置や下水道などへの接続の補助を行い、早期の生活排水未処理世帯の解消を目指す。

畜産対策では、堆肥の処理施設の設置や改修費用を補助し、小規模事業所には、流域内のコンビニなど約1,800件全てに立入検査を行い、排水基準の遵守・徹底を図る。

北浦のCODが高い要因は、生活排水処理率が低いこと、畜産の汚濁負荷が大きいことなどと分析しており、北浦流域では戸別訪問を実施するなどの対策強化を図る。

これらの対策を推進し、達成度合いを検証・評価し、早期の「泳げる霞ヶ浦」の実現に向けて取り組む。

一方、国では、令和12年度の完成に向けて霞ヶ浦導水事業を進めており、北浦の巴川の河口部でも、新たな流入負荷抑制対策を行うと聞いている。引き続き湖内対策の推進について国に要望していく。

## 2. 霞ヶ浦環境科学センターにおける「環境学習」の目標と達成時期、事業展開について



### 外塚議員質問

森林湖沼環境税事業の中で、霞ヶ浦湖上体験スクール事業の予算削減には、大変懸念をしている。

水環境を保全する意識は、**水辺と触れ合う体験を通して育まれるため**、霞ヶ浦環境科学センターがその役割を担い、**環境学習の充実に特化して、魅力あるセンター**に生まれ変わって欲しい。

例えば、ヴァーチャルリアリティー技術を導入し、センターにいながら琵琶湖博物館や、実際の湖沼・河川の水辺などを仮想体験できるようにするのとも一方策ではないか。

また、「持続可能な霞ヶ浦」の実現に向けて、**茨城の湖沼で実現すべき目標 (Ibaraki Lake・Goals (ILGs)) と達成時期を示した行動計画**の下、市町村や市民を導いていくこともセンターが担うべき新たな役割と考える。

霞ヶ浦湖上体験スクール事業を縮小した県は、霞ヶ浦環境科学センターでの環境学習の充実にどう取り組むのか。

また、センターの新たな役割をどのように考え、事業を展開していくのか。

### 矢口県民生活環境部長答弁



環境学習については、知識の習得にとどまらず、体験型施設を活用し、環境に優しい実践活動に結びつくよう推進することとしている。

湖上体験スクールでは、**延べ11万2,000人の小中学生などに参加**いただき、霞ヶ浦湖岸の自然再生地区など、野外フィールドでの体験型の環境学習も積極的に実施してきた。さらに、漁協と連携した魚の観察・試食イベントなどにも取り組んでいる。

今後、つくば霞ヶ浦りんりんロードのサイクリングと連携した環境体験型イベントや、釣り体験と組み合わせた環境教室などにも取り組みたい。

また、**小中高校生による環境保全活動の成果などをWEB上で広く発信**するなど、**オンライン活用の充実に**も努める。

センターの新たな役割については、大きなテーマであるため、まずは流域の様々な分野の関係者や有識者などと意見交換をしていきたい。

時代に合った環境学習に加え、様々な御指摘を踏まえつつ、霞ヶ浦を次世代に引き継ぐため、取り組んでいく。

### 2050年頃の霞ヶ浦周辺のネットワーク



### 3. 水環境保全意識等を育む環境教育の充実と人材育成について



#### 外塚議員質問

大規模激甚災害への対応やカーボンニュートラル社会の実現が目標となった今、環境教育を通して、新しい人財育成に取り組む必要がある。

一方、**環境教育は、すぐに効果が表れにくい**ため、**学習プログラムと達成目標を策定し、水辺や里山での体験や知識の習得を行う時間の確保と、教育内容の充実が重要**である。

小中学校では、理科や社会、総合的な学習の時間などを環境教育に充てているが、年間どのぐらいの時間をかけているのか。また、今の時間数のままで、必要な知識や経験を子どもたちに与えられるのか。

霞ヶ浦湖上体験スクールに参加した後、霞ヶ浦環境科学センターや、**市民団体の優れたテキストを活用**して水環境学習のフォローに取り組んでもらいたい。

また、**多忙な教員に負担をかけない**よう、既存の環境教育プログラムを活用して欲しい。

県教育委員会は、小学生が水環境保全の意識を育む環境教育の充実と、それをフォローできる人材の育成・確保にどう取り組むのか。

#### 小泉教育長答弁

地球温暖化防止などが世界規模で課題となっている中、子どもたちへの環境教育は極めて重要である。

小学校では、年間70時間ある総合的な学習の時間を中心に、霞ヶ浦の水質改善に向け、水質調査や湖上体験を通して学んだことを生かしながら課題解決に取り組むとともに、中学校では、霞ヶ浦環境科学センター職員の特別授業を受け、その内容を理科や社会、技術・家庭科などで進めている事例もある。

今後は、**子どもたちが主体的に環境について学び合う「こども未来環境会議」を開催し、各学校の活動や研究成果について意見を述べ合うなど、学びを深めていく。**

また、環境教育の質の向上には、専門的知見を持った人材の育成や活用が重要なため、**中堅教員を対象に「持続可能な社会を創る！SDGs研修講座」**など、複数の研修を行っている。

今後は、県環境アドバイザーや霞ヶ浦環境科学センターの講師の活用を促進し、環境教育の質の向上を図っていく。



### 4. 霞ヶ浦湖上等を利用したドローン等の最先端技術の実装化と企業のスタートアップ支援について



#### 外塚議員質問

社会のデジタル化など、コロナ禍の2年間で社会は大きく変わり、社会の持続と発展のためには、最先端技術の活用が必要

不可欠である。

中でも私は、**ドローンに最も期待を寄せており、その実験の場として霞ヶ浦湖上は適地と**考えている。

昨年12月にも、ドローンを利用した霞ヶ浦を横断する物流実験が実施されたが、県には、沿岸市町村とともに、地域課題解決に向けた議論や取り組みを後押ししてもらいたい。

また、4月には、かすみがうら市を含む沿岸3市が新たに過疎地域に指定されるが、今後とも中小事業者が産業を振興していくためには、他地域に先駆けて最先端技術を活用できる環境整備が必要であり、この整備により、既存ビジネスの改善や新ビジネスの立ち上げにつながることも期待する。

霞ヶ浦湖上などを利用し、ドローンなどの最先端技術の活用をどのように進めていくのか。また、中小事業者が最先端技術を活用できる社会環境の整備にどう取り組むのか。

#### 前田産業戦略部長答弁

ドローンは、農薬や肥料の散布、測量、インフラの点検など幅広い分野で普及が進んでおり、今後、物流や移動手段を担っていくことも期待される。

これまでも、北浦の希少な植生帯の把握や、不法に投棄された産業廃棄物の確認など、市町村と連携したドローン活用の取組を推進してきたが、**県として霞ヶ浦沿岸の市町村などと連携した社会課題の洗い出しを進めるとともに、IoTやAIなどのデジタル技術も活用し、民間事業者の創意工夫を生かした課題解決に取り組んでいく。**

具体的には、農作物への鳥獣被害対策や、観光シーズンの渋滞対策など、テーマを設定して解決策を公募し、社会での活用までしっかりと後押しする取組を推進していく。

また、関係機関と連携した**ワンストップによる情報提供にも取り組み、ビジネスの創出を促進**するとともに、広く県内産業を支える**IT人材の育成・確保が重要**であるため、産業界と連携した即戦力人材の育成などを進めていく。



## 5. コロナ禍における高齢者の感染予防と健康長寿・介護予防の両立支援について



### 外塚議員質問

コロナ禍の中、重症化リスクの高い高齢者は、自宅に籠もる時間が増え、運動量だけでなく、人と触れ合う機会や場所が減少している。また、**高齢者施設の入所者の方々も家族と面会ができず、孤独感をつ**

**らせている。**

感染予防対策と同時に、**健康長寿や介護予防のためのサービス充実に取り組むのが、行政の役割**ではないか。

4月から新たに過疎地域に指定されるかすみがうら市では、高齢化の加速が見込まれるが、今後、高齢者の方々が人生100年時代を楽しく生きていくためにも、健康長寿と介護予防サービスの充実が必要不可欠と考える。

コロナ禍の中、感染予防と健康長寿・介護予防などが両立できるよう、どのように取り組んできたのか。

また、今後のアフターコロナ社会に向け、健康長寿・介護予防サービスのさらなる充実に、どう取り組んでいくのか。

### 吉添保健福祉部長答弁

コロナ禍の中、ワクチン接種に全力で取り組み、介護予防の取り組みも進めてきた。

感染防止対策に配慮しながら、介護予防事業をできるだけ実施するよう市町村に働きかけ、**在宅の高齢者向けに、家庭での感染防止対策やフレイル予防などを紹介したリーフレット、他市町村の取組事例を紹介した結果、開催見送りとなっていた介護予防教室等が感染防止対策に配慮の上、各地で開催されるようになった。**

一方、高齢者施設等での面会は、感染防止と、家族等との交流が心身の健康に与える影響の観点から、**安全な方法を検討する必要があるため、対面での面会が制限された場合でも、入所者と家族等の交流が図れるよう、面会用タブレットやアクリル板の購入費用等の支援**を行ってきた。

さらに今年度は、県歯科医師会や県栄養士会などの協力を得て、フレイル予防の実践方法などを紹介する動画を作成し、県ホームページで配信するほか、市町村等に高齢者が集まる場所での上映を働きかけてきた。



## 6. 通学路交通安全プログラムに基づく迅速な対策実施のための課題と改善策について



### 外塚議員質問

通学路の危険箇所は、県の教育庁や県警察本部、土木部、県民生活環境部、地元市町村、学校などが、

通学路交通安全プログラムに基づき点検や改善に取り組んでいる。

昨年は、千葉県八街市の通学路で発生した**大規模交通事故をきっかけに、新たな視点から通学路の再点検をしてもらったが、新たに発見された対策必要箇所が予算案などに十分反映されたとは言えない。**

対策箇所の優先づけや予算要求の検討・決定は、どのような行っているのか。また、迅速な対策に向けた連携体制の課題を、どう認識しているのか。

県には、千葉県八街市のような交通事故が発生しないよう、保護者などからの改善要望箇所を改めて確認して欲しい。**特に、県警察には、信号機設置や横断歩道の安全対策も、前向きな検討をお願いする。**

県警察は、通学路の安全確認、対策実施箇所の優先づけの検討、予算づけなどの課題をどう認識し、今後、どう改善していくのか。

### 飯利警察本部長答弁

千葉県八街市の小学生死傷事故をきっかけに、**従来の点検で取り上げら**

**れていなかった、見通しがよく速度が上がりやすい道路、幹線道路の抜け道、大型車の進入が多い箇所、地域住民等から改善要請があった箇所なども追加点検**を行い、対策を検討すべき箇所として523か所を抽出した。

このうち175か所は、パトロールや交通指導取締りを実施し、残る348か所は、信号機の新設・信号サイクル等の変更、横断歩道の新設・塗り直し等の対策について、実施可能なものから順次着手することとしている。

**令和3年度には補正予算も確保の上、27か所で対策を完了、115か所で工事に着手した。**それ以外の206か所は、**令和4年度当初予算で予算確保の上、対策が可能か検討し、対応が困難な箇所は、あらゆる代替措置を検討していく。**

警察として、これまで抽出された箇所の対応を急ぎつつ、新たに対策が必要な箇所があれば、それらも加えて積極的に検討していく。



## 7. かすみがうら市周辺地域の道路及び歩道整備と今後の見通しについて

### (1) 県道牛渡馬場山土浦線の歩道整備の進捗状況と今後の見通し



#### 外塚議員質問

通学路交通安全プログラムでも改善の対象となっている、**県道牛渡馬場山土浦線のかすみがうら市穴倉区間は、一部の歩道が未整備**のままであり、マスクを着けた子どもたちが一列で通学しても危険な状況となっている。

また、土浦協同病院へのアクセス向上のため、現在、かすみがうら市・土浦市・石岡市が、かすみがうら市上土田の国道6号から、この歩道未整備区間を通過して、土浦市おおつ野の国道354号へと至る路線整備を進めている。

この路線整備が完了すれば、交通量が大幅に増え、歩道未整備の通学路は更に大きな危険にさらされるため、県には早期の歩道整備を求める。

県道牛渡馬場山土浦線の、かすみがうら市穴倉区間における歩道整備の進捗と今後の見通しは、どうなっているのか。

#### 仙波土木部長答弁



県道牛渡馬場山土浦線は、かすみがうら市牛渡の県道を起点に、JR常磐線神立駅を經由し、土浦市木田余の国道354号を結ぶ幹線道路であり、地域住民の日常生活を支える路線である。

このうち、かすみがうら市穴倉の約1.1キロ区間は歩道が未整備で、かすみがうら市、学校、警察などと通学路点検をした結果、対策必要箇所としても位置づけられた。

まずは**昨年度、神立駅に近い南側の約400メートルを優先して路線測量を行い、今年度は、歩道の詳細設計や用地測量を実施し、現在、用地取得を進めている。**

引き続き、この優先区間の用地取得を進め、用地が確保できた箇所から順次、工事を進めていく。残る約700メートル区間も、優先区間の進捗を踏まえながら事業着手していきたい。

### (2) 国道354号急カーブ区間の緩和対策の進捗状況と今後の見通し

#### 外塚議員質問

かすみがうら市**戸崎地区の国道354号のカーブ区間は、以前から死亡事故を含めた交通事故が絶えず、地元では魔のカーブ**と言われてきた。

このため、私は繰り返しカーブ区間の緩和対策について質問をしてきたが、**二度と痛ましい事故が起きないよう、カーブ緩和対策の完了に向け、スピード感を持って道路改良**に取り組んでほしい。

国道354号急カーブ区間の緩和対策の進捗と今後の見通しは、どうなっているのか。

#### 仙波土木部長答弁

国道354号の急カーブ区間は、土浦市との境から約300メートル東側に位置し、見通しが悪い急カーブのため、曲がり切れずに正面衝突する事故が発生している。

これまでに、このカーブ前後の約600メートル区間で、ドライバーに注意を喚起する路面標示を設置するなど、応急的対策を講じてきた。

また、抜本的対策として、カーブの緩和や見通しの改善を図るため、令和元年度から道路改良事業に着手し、測量、設計、用地取得を進め、**現在、工事に支障となる電柱や信号機の移設、排水施設や防護柵などの設置工事を行っている。**この後、舗装や区画線の設置などを行い、**今年度末には工事が完了する見込み**である。

#### 国道354号戸崎原魔の急カーブ



#### 下稲吉十字路



#### 中志筑三差路歩道



# 2022年 活動報告



2021年4月30日 新治地区農地集約事業調査活動



6月11日 営業戦略農林水産委員会にて  
コロナ禍における営業時短協力について問う



6月11日 高校生による6次産業化調査活動  
東西地区【鬼怒商業高等学校】による「とうむぎあいず」の発表会



6月18日 零細・小規模事業者支援要望活動



7月14日 犯罪・性犯罪被害者支援条例制定に関する調査活動



JA学総ひかり調査活動



7月20日 県内調査活動  
さしま茶生産販売所調査活動  
無人バス乗車調査活動



8月30日 国道354号4車線化整備要望活動



10月15日 森林湖沼環境税の継続要望活動



11月2日 決算特別委員会



11月10日 営業戦略農林水産委員会にて梨の恵水の  
販売と常陸牛等の輸出について問う



11月19日 県内調査活動 牛久シャトー調査活動



11月27日 霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生事業「環境管理活動  
(特定外来種生物の除去・清掃活動)」



12月2日 霞ヶ浦の漁業を守る為の後継者育成について農林部長に問う



12月2日 第4次森林湖沼環境税導入に向けた連合審査会



12月9日 議会運営委員会にて休日議会を審議



12月11日 霞ヶ浦環境科学センター調査活動  
2022年1月6日 かすみがうら市令和4年頭行事



1月13日 首相官邸にて岸田総理大臣に県政課題要望



1月14日 漁政課長来訪  
漁業新規就労支援事業ヒアリング調査活動



1月27日 地域課題解決に向け調査活動



茨城県のビジョン説明



2月2日 齊藤鉄夫国土交通大臣中央要望スマートIC



3月2日 小善副知事に「泳げる霞ヶ浦の早期実現」を要望



3月8日 令和4年第1回定例会一般質問登壇



3月10日 霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区 自然再生協議会調査活動



3月14日 営業戦略農林水産委員会 養殖コイの学校給食利用状況を問う



3月15日 営業戦略農林水産委員会梨の恵水の生産、販売実績について問う



3月16日 ウクライナ大使に義援金を寄付



4月26日 環境防災産業委員会委員長挨拶



5月15日 茂木敏充幹事に県政課題要望活動



ミジノコの調査活動



5月18日 常任委員会にて  
霞ヶ浦環境科学センター調査活動  
子どもたちの水質研究視察



5月18日 防災環境産業委員会（県内調査）  
インハウンドに向けた筑波山環境整備調査活動



かすみキッチン調査活動



5月28日 子ども食堂調査活動



5月30日 第2回定例会内示会

# みんなの声を県政へ

茨城県議会議員 **きよし**

# とつか潔

料金別納  
郵便

かすみがうら市に  
お住まいの皆さまへ

配達地域指定



## 感染者拡大中

屋外ではマスク着用により、熱中症のリスクが高まります

**特に運動時には、忘れずにマスクをはずしましょう**

近距離で(2m以内を目安)会話をする時はマスクの着用を

屋外での散歩やランニング、通勤、通学などもマスクの着用は必要ありません

- ・人との距離(2m以上を目安)が確保できて、会話をほとんど行わない場合は、マスクを着用する必要はありません。
- ・マスクを着用する場合でも、屋内で熱中症のリスクが高い場合には、エアコンや扇風機、換気により、温度や湿度を調整して暑さを避け、こまめに水分補給をしましょう。

屋内でもマスクが必要ない場合があります



熱中症予防 × コロナ感染防止  
**熱中症を防ぐために**

7月15日作成

熱中症予防対策をしましょう

**暑さを避けましょう**

- ・涼しい服装、日陰や帽子
- ・少しでも体調が悪くなったら涼しい場所へ移動
- ・涼しい室内に入れなければ、外でも日陰へ

**のどが乾いていなくてもこまめに水分補給をしましょう**

- ・1日あたり1.2Lを目安に

**エアコン使用中もこまめに換気をしましょう**

- ・窓とドアなどを2か所開ける
- ・扇風機や換気扇を併用する
- ・換気後は、エアコンの温度差をこまめに再設定

**暑さに備えた体力づくりと日頃から体調管理をしましょう**

## 新型コロナワクチン 4回目接種について

### 接種対象者

3回目接種完了から5カ月以上経過した下記のいずれかに該当する方

- (1) 60歳以上の方
- (2) 18歳以上で基礎疾患を有する方・  
その他重症化リスクが高いと医師が認める方

※18歳以上60歳未満の方については予防接種法上の「努力義務」の対象とされておりません。  
「努力義務」とは、「接種を受けるよう努めなければならない」という予防接種法の規定のことで、義務とは異なります。  
なお、接種対象者の範囲については、最新の科学的知見を踏まえ、厚生労働省が引き続き検討することになっています。

### 接種券発送予定時期

60歳以上の方については、3回目接種完了から5カ月が経過する時期に応じて接種券を発送予定です。

3回目接種終了月	接種券発送予定	接種目安時期
令和3年12月 令和4年1月	令和4年5月26日(木)	令和4年6月
令和4年2月	令和4年6月22日(水)	令和4年7月
令和4年3月	令和4年7月25日(月)	令和4年8月
令和4年4月	令和4年8月下旬	令和4年9月

現在、皆様の生活、教育、経済、医療機関の問題など身近な諸問題、諸課題をお知らせ下さい。

**皆様のご意見をお聞かせください** 新型コロナウイルス・働く場・医療・教育環境・観光産業・道路整備 などについて



発行 / 茨城県議会議員 外塚 潔  
〒315-0055 かすみがうら市稲吉南3-14-20  
mail:totsuka.kiyoshi@poplar.ocn.ne.jp  
http://www.totsuka-kiyoshi.net  
TEL 029-831-6880



**FAX 029-831-6882**